世界へすゝめ
GO GLOBAL
Keio University Faculty of Science and Technology

Double Degree Program

Keio University
Graduate School of
Science and Technology

Double Degree Program

Keio University
Graduate School of
Science and Technology

ダブルディグリープログラム

CONTENTS

- はじめに …… 02
- 理工学部・理工学研究科が提供する ダブルディグリープログラム …… 03
- 学部生対象 ダブルディグリープログラム …… 05
  - École Centrale de Lille …… 07
  - École Centrale de Lyon …… 08
  - Centrale Méditerranée …… 09
  - École Centrale de Nantes …… 10
  - CentraleSupélec …… 11
  - 留学体験記 …… 12
- 大学院生対象 ダブルディグリープログラム …… 13
  - Université Catholique de Louvain …… 14
  - Université libre de Bruxelles …… 14
  - Institut Mines-Télécom …… 15
  - MINES Paris …… 15
  - RWTH Aachen University …… 16
  - Leibniz University Hannover …… 16
  - Technical University of Munich …… 17
  - Politecnico di Milano …… 17
  - Universidad Politécnica de Madrid …… 18
  - KTH Royal Institute of Technology …… 18
  - 留学体験記 …… 19
- 応募から選考まで／留学のための費用／奨学金 …… 21
- 留学紹介インタラクティブ動画／FAQ …… 22

はじめに

この冊子は慶應義塾大学理工学部・理工学研究科で学ぶ学生に向けて、ダブルディグリープログラムという高等教育における国際連携の取り組みを紹介することを目的としています。通常の交換留学と異なる点は、派遣期間が長いことと、派遣先の協定校での学習がそのまま協定校からの学位の取得につながることにあります。そのため、交換留学では派遣先で取得した単位は帰国後に慶應の科目に読み替えて卒業単位に加算することを選べるのに対して、ダブルディグリープログラムでは派遣先で学位取得に必要な単位を必ず取得しなければなりません。要求は厳しいですが、派遣先での学習内容の質保証は、プログラム内でしっかりと行われています。

海外では、学生の国境を越えた移動が推奨され、活発に行われています。異国の地で生活し、多様な人、考え、文化に触れることにより得られる学びに価値を見出しているからです。そして、現地の学生と肩を並べ切磋琢磨する経験は、新しい時代を強く切り拓いていく力を育んでくれるものと考えています。

2005年以来、本学から200名を超える理工学部生がダブルディグリープログラムに挑戦してきました。逞しく成長して理工学部に帰ってきた彼ら、彼女らは、留学前とは全く違った視野を持ち、社会で活躍しています。とはいえ、本プログラムは通常の学位課程に比べて修了までに、より多くの時間や費用がかかります。ご自分にとって、2つの学位を取得することはどういう意味をもつものなのか、この冊子を良く読んで考えてみてください。

※この冊子には2026年3月の時点で最新の情報を掲載しています。それ以降の追加情報については理工学部のウェブサイトに逐次アップデートしますので、随時確認してください。

理工学部・理工学研究科が提供するダブルディグリープログラム

ダブルディグリープログラムは、慶應義塾大学理工学部・理工学研究科とその協定校の合意のもとで用意された一連のカリキュラムを修めると、両校から同時に修士相当の学位を取得できる仕組みです。
ここで紹介するプログラムには派遣の時期や期間が異なるものがありますので、それぞれの特徴をよく理解して、自分の目的にあったものを選択するようにしてください。

学部生対象大学院一貫プログラム

学部生対象ダブルディグリープログラムは、学部2年生を対象として参加募集を行うものです。学部の3·4年に相当する2年間を協定校で学び、帰国後は大学院（理工学研究科）修士課程に入学します。修士課程を修了した時点で慶應義塾から修士（理学または工学）の学位が、協定校から工学修士相当の学位がそれぞれ授与されます。合計すると、慶應の学部2年間＋協定校での2年間＋慶應の修士課程2年間で6年間の一貫課程となりますが、日本と欧州で年度開始の時期が半年ずれているために修士課程修了は9月となり、大学入学から修了まで実際には6年半かかることになります。

派遣先での学習内容は、1年目はジェネラリスト教育（専門に偏らず広い分野を修める）を標榜しており、慶應の理工学部のような学科別の専門教育とは異なります。したがって、専門を深めるための学習ではなく、広く一般的な工学およびその関連分野の基礎知識を身につけたい人にとっては、魅力的なカリキュラムと言えるでしょう。2年目になると、専攻と言えるほどではないものの、希望する分野に寄せた履修が可能になります。専門分野について深く勉強するのは帰国後で、慶應の修士課程で修士論文のテーマとして行うことになります。このとき、学部4年の卒業研究を行わずにいきなり大学院で専門を選ぶため、派遣前に所属していた学科とはまったく異なる分野を専門として選ぶことができます。過去に参加した学生のなかには実際にそうしている人たちが半数近くいます。

修士課程学生対象3年プログラム

大学院生対象ダブルディグリープログラムは通常2年間の修士課程を3年間に延長して慶應と協定校の2つの大学院を行き来して学びます。修了と同時に双方から修士の学位を取得することができるプログラムで、修士課程に進学予定の学部4年生を対象に募集を行うものです。この冊子の13ページ以降に紹介されているプログラムがこの方式に相当します。いずれの派遣先にも共通するのは、修士1年目の春学期を慶應で過ごしてから夏休みに協定校に移り、先方で1年半または2年間にわたり滞在し、帰国後に慶應で修士論文を仕上げるというプロセスです。この場合、欧州と日本の間にある半年間のカレンダーの違いは学習期間に吸収されるため、慶應の修士課程修了は3月となります。

理工学部から大学院に進学する多くの人は学部4年次に卒業研究で取り組んだ専門分野を大学院でも学び続けるので、派遣先で学ぶ専門分野はダブルディグリーに申請する時点であらかじめ定まっていることが想定されています。また、派遣先から帰国したときは、修士1年春学期に所属した研究室に戻り、引き続き、修士論文のための研究を行うことから、申請に先立って慶應の研究室の指導教員と帰国後のことまでよく相談しておく必要があります。仮に慶應の指導教員と専門が近い研究者が派遣先協定校にいる場合、その研究室で修士論文の準備をすると帰国後の接続がスムーズとなるので派遣先での学習内容がとくに有効に活用されます。

専門の選び方

学部生対象プログラムでは、フランスに派遣されて1年ほどが過ぎた時点でもう帰国後の大学院の研究室を選ばなければなりません。これまでの派遣生を見ていると、先方で1年目に学習した内容や、インターンシップで経験したこと、日本では見えなかった世界などを見たことなどで将来の就職先などを改めて考え直し、その過程を経て自分の専門に関する考えを固めてゆくようです。慶應理工学部では通常の場合、1年生の途中で学科を選び、2年次に学科に分かれたあとはもう専門が絞られるのとは対照的です。早いうちに専門を決めたくないという人にとってはこのプログラムは向いていると言えますが、一方で、派遣先での学習だけでは帰国後にすぐに大学院で研究を始めることができない分野もあります。このプログラムへの参加を決める前に、もう一度自分の専門についてよく考え直すことが大切です。

一方、大学院生対象のプログラムでは、通常、学部3年の終わりごろに行われる卒業研究の研究室配属が大きな意味を持つことになります。慶應の修士課程は欧州の大学に比べてカリキュラムにおける研究の比重が高く、学部4年から修士2年までの3年間を研究室で過ごす一貫教育的な性格があります。そのため、卒業研究で選んだテーマによっては、大学院で中断して留学することが難しくなる可能性があります。一方で、慶應と相手校で研究の興味が共通する研究室の場合は、ダブルディグリー派遣生を仲立ちとして大学間の共同研究がスタートするような場合もあるでしょう。実際、派遣先での留学期間中、少なくとも最後の半年ほどは小規模の研究プロジェクトに着手することになっているので、そのテーマを慶應に持ち帰って修士論文として完成させるためには両校の指導教員同士の連携が極めて重要です。学部3年生で研究室や研究テーマを選ぶ際にはそのような発展性が見込まれるかといった点も注意しておくと良いでしょう。

最後に、ここで提供するダブルディグリープログラムは異なる2つの専門についてそれぞれ学位を授与するという意味ではないことに注意してください。むしろ、2つの国で学ぶ専門分野や取り組む問題は共通していても、文化的・社会的な背景の違いによって異なるアプローチがあることを体験することが重要です。単に2つの学位を取得できるというよりも、理工学的な専門分野と合わせて文化や言語への理解が深まり、新たな興味を発掘する機会を得るところにこのプログラムの価値があると言えるでしょう。

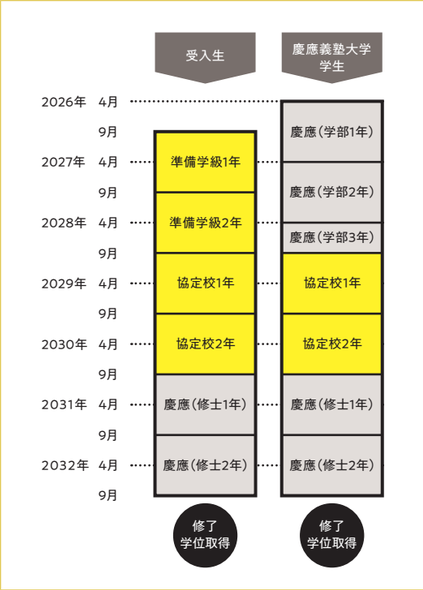
学部生対象
ダブルディグリー
プログラム

École Centrale de Lille
École Centrale de Lyon
Centrale Méditerranée
École Centrale de Nantes
CentraleSupélec

学部1・2年次を慶應、3・4年次を協定校、そして再び慶應で修士課程を修める事により、
理工学研究科と協定校の両方の学位を取得する事が可能なプログラムです。

協定校と慶應義塾大学理工学部双方の学生が相手国で2年間の学習を経て
修士課程（慶應義塾大学大学院理工学研究科）を修了した場合、
義塾で取得した修士（工学／理学）の学位に対して、
協定校からも工学修士相当のエンジニア資格が認定されます。

本学理工学部生は、3年次進級前に学内および受け入れ先の選考を受け、
合格後同年夏季に渡航、2年間の学業を終え帰国し、
慶應義塾大学大学院理工学研究科修士課程に入学します。
従って、慶應義塾の学生で本プログラムに出願できるのは、
派遣時に理工学部2年次までの科目履修を終えている学生のみとなります。



［ 協定校紹介 ］　Écoles Centrales

エコールサントラル（EC）はフランスに約250校あるグランゼコールの中でもジェネラリスト教育を標榜する理工系分野に特化したカリキュラムを特徴とします。実業界や産業界と密接なつながりをもち、実学的な素養と国際感覚の育成に注力しています。同じ教育理念を共有する5つの都市にあるグランゼコールがまとまってエコールサントラルグループを構成しています。理工学部とは2005年度からダブルディグリープログラムを実施しています。

［ グランゼコールとは？ ］

フランスの高等教育機関は、「大学Universités」と「グランゼコールGrandes Écoles」に分かれています。この「グランゼコール」はフランス独自の教育機関であり、高校卒業後、2年間の準備学級（Les Classes Préparatoires）を経たのち、さらに厳しいグランゼコール選抜試験に合格した者のみが入学できる、高等教育機関です。

［ フランス語について ］

ECでの授業はすべてフランス語で行われます。授業を理解し、円滑な学生生活を送るためには、ある程度以上のフランス語能力が必要になります。（CentraleSupélecでは1年目は英語による授業科目が提供される場合がありますが、2年目はフランス語になります。）DD留学を志したならば、なるべく早めに本格的なフランス語学習に取り組みましょう。留学の出願をする時点ですでに十分なフランス語能力を有していることは必須ではありませんが、派遣に向けて、そして派遣決定後は更に、フランス語能力の向上に最善を尽くさなければなりません。特に、1年次の選択必修諸外国語としてフランス語以外の言語を選択している場合は、早めにフランス語学習を始めることが重要です。

理工学部では、DD留学に向けて、以下の授業やプログラムを推奨しています。

● フランス語インテンシブ1・2（日吉、総合教育科目）
● フランス語セミ・インテンシブ1・2（日吉、総合教育科目）
● フランス語セミ・インテンシブ3・4（矢上、総合教育科目）

フランス語学習歴1年以上の学生を対象とし、会話練習を中心に、密度の高いフランス語教育を提供しています。

● フランス語留学準備1・2（日吉、総合教育科目）

主にDD留学を希望する学生を対象に、比較的易しい内容の理工学系の授業をフランス語で行います。

● ECNフランス語フランス文化研修プログラム

春休みにECナントにて6週間の語学研修・文化研修を行います。フランス語学習の他、エクスカーションやホームステイを通じて、フランスの文化、社会、芸術などを学びます。

※他のフランス協定校による短期プログラムも、国際担当ウェブサイトで紹介しています。

● 事前フランス語研修（Cavilam）

派遣生は、各派遣先での就学に先立って、フランスの町VichyにあるCavilamという語学学校で、フランス語研修に参加します。Cavilamは、長年にわたってEC と提携している、国内外から信頼された語学学校です。研修期間は原則9週間ですが、各自のフランス語能力や費用面などを考慮に入れて、自分に合った期間を選んでください。多くの派遣生は、6月最終週から9～10週間程度の研修を受講しています。フランス在住経験者など、すでに十分な語学力を有している派遣生は、必ずしも語学研修に参加する必要はありません。

［ 授業料 ］ €240／週（通常価格は€378／週）
［ 宿泊費 ］ €31／日（個室・1日2食付）（2025年度参考）

［ 学部生対象DD派遣実績 ］

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
Lille	-	1	-	-	-	-	-	2	1	2
Lyon	1	1	1	1	-	1	-	1	2	2
Méditerranée	1	1	1	1	2	-	1	2	-	3
Nantes	1	2	2	2	2	2	-	1	1	3
Centrale Supélec	1	1	-	2	-	1	1	-	1	-
total	4	6	4	6	4	4	2	6	5	10

※2020年度は新型コロナの影響で一定期間オンライン留学となりました。
※2022年よりÉcole Centrale MarseilleはCentrale Méditerranéeへ名称変更されました。

［ 日本人DD修了生進路 ］

ABB／A.T.カーニー☆／Citi Groupe／freee／GE Healthcare Japan／IHI（石川島播磨重工業）☆／JAXA／JETRO／NTTデータ数理システム／NTTドコモ／PwCコンサルティング／PwC Japan監査法人／SMBC日興証券／Tetra Pak☆／UBS証券／ZS associates／アーサー・D・リトル／アール・アイ・エー／アクセンチュア／旭化成／アズビル／アバナード／アマゾン・ジャパン／アマゾンウェブサービスジャパン／エリクソン・ジャパン／大林組／キーエンス／キオクシア／キヤノン／経済産業省☆／ゴールドマン・サックス証券☆／小松製作所／サイネオス・ヘルス・クリニカル／資生堂／シャープ／新日鉄住金ソルーションズ／住友商事／住友スリーエム／ソニー／ソニー・インタラクティブエンタテインメント／ソフトバンク／ダッソー・システムズ／千代田化工建設／デロイトトーマツコンサルティング／デンソー／東海旅客鉄道／東京ガス☆／東芝☆／凸版印刷／トヨタ自動車／ドワンゴ／ニコン☆／日揮ホールディングス／日産自動車／日本銀行／日本経済新聞／日本政策投資銀行／日本取引所グループ／日本郵船☆／野村證券／野村総合研究所／日立製作所☆／ブーズ・アンド・カンパニー／フーチャーアーキテクト／フォルシア・ジャパン／ボストンコンサルティング／ボッシュエンジニアリング☆／マッキンゼー＆カンパニー・インク・ジャパン☆／ミシュランリサーチアジア／みずほ証券／三菱重工業／三菱商事☆／三菱電機／ヤフー／ヤマハ発動機／監査法人トーマツ／リクルートキャリア／レバレジーズ／ローランド・ベルガー／慶應理工研・博士課程進学☆／Ecole des ponts ParisTech　（ルノー財団）／デルフト工科大学（オランダ）博士課程進学／ワシントン大学（アメリカ）博士課程進学／国外就職他

☆…2名以上就職
※就職活動については、派遣生の報告書を参照してください。
※2008年度以降修了生の進路先より抜粋
（理工学部学生課キャリア支援オフィス調べ）

École Centrale de Lille
ECリール

リールは北フランス最大の工業都市で、フランス最北部のベルギーと国境を接する Hauts-de-France 地域の中心地です。
古くから交易が盛んな産業都市として知られていて、パリ・リヨン・マルセイユに次ぐ第4位の規模の都市圏を構成しています。
また、フランドル地方の文化が融合した美しい旧市街やフランス屈指の規模を誇る美術館やオペラ座などの文化施設も充実し、
この地方独特の文化に触れることができます。近年は科学技術都市としての色彩を強め、市内を無人運転の地下鉄やトラムが走り、
再開発地区に国際会議場や見本市、多目的ホール、6万人収容のスタジアムが建設されています。

EC-Lille はリール市の隣町、Villeneuve-d'Ascqというコミューンにあり、市内から無人運転の地下鉄で約15分です。学生数は1学年300人ほどと小規模で、学生同士や教授との距離が近く、和気あいあいとした雰囲気です。ジェネラリストの養成という教育理念に基づき、機械工学を中心に電子工学、化学、数学、情報工学とさまざまな分野を多岐にわたって学ぶほか、経済や社会学など、エンジニアとして働く上で欠かせない教養を身につけます。また、2年間を通して行うプロジェクトやインターンシップなど、産業界との結びつきも強く、実学に基づいた知識も養います。授業は日本同様、大教室での講義、クラスごとの演習と実験に分けられます。最初のセメスターと言語の授業では、同じクラスの人と親しくなる機会があります。各学年には30人前後の留学生がおり、留学生はブラジル人4割、中国人4割、他国籍が2割と国際色も豊かです。留学生に対するサポートも充実していて、留学生活を豊かに過ごせるよう様々な配慮がなされています。

● プロジェクト

教室で行う授業の他に、10人前後のグループで1年次の11月から13ヶ月のプロジェクトがあります。プロジェクトのテーマは企業、教授、生徒から提案されたものの中から選びます。各グループに指導教員がつき、企業との連携で行われることもあります。

● インターンシップ

1年次の1月～2月に4週間、2年次以降（大学院）修了までの間に各自のタイミングで10週間以上の企業でのインターンシップが義務付けられています。1年次は企業研究（Découverte de l'Entreprise）というテーマに基づき、職種は問われません。2年次はエンジニアとして働くことが義務付けられており、母国で行うことも可能です。

[キャンパスライフ]

学生はキャンパスに近接した寮で、一人部屋か二人部屋を選ぶことができます。各部屋には、台所・洗面所・シャワー、トイレが完備され、コインランドリーがあります。寮の敷地内には無料のジムや多目的ホールがあり、週末にはパーティーが開催されることもあります。

● クラブ活動

クラブ活動は、スポーツ、音楽、ボランティアサークルなど種類は様々です。また学内のイベントの企画を行うBDE（生徒会）、BDA（芸術系イベントの担当）、BDS（スポーツ系イベント担当）という組織があり、パーティーや旅行、スポーツ大会や音楽会など様々なイベントを楽しむことができます。

● 旅行

1~2週間の休暇が年に4回と夏休みが2ヶ月間あり、留学生の多くがこのバカンスを利用して旅行に出かけます。国内旅行はもちろん、リールはベルギーやイギリスへのアクセスもよく、気軽に他のヨーロッパ諸国へも出かけられます。

※本文は派遣生の報告によるものです。

École Centrale de Lyon
ECリヨン

リヨンはアルプスへの入り口に位置するフランス第2の都市です。パリからマルセイユへと南北に縦断するフランスの国内交通の要衝であり、
多くの銀行がこの地に本店を置く金融の中心地です。また、美食の街としても知られ、リヨンの伝統料理を楽しめる洒落たビストロや
カフェはもちろん、中華街やファストフードも充実しています。北東から流れるローヌ川と北から流れるソーヌ川を中心に、
ソーヌ川の西側は長い歴史の残る旧市街、ローヌ川の東側は近代的なビジネスオフィスやショッピングモールが並ぶ新市街となっています。
郊外には工業地帯があり、総合大学が3つ、単科の理工系グランゼコールも複数ある科学研究都市でもあります。

EC-Lyonのキャンパスへは中心街からバスで20分ほどのところに位置します。ほとんどの授業が必修で、数学、物理、化学、機械、制御工学、情報工学、材料力学、流体力学、電気・電子工学、さらには、経済学、会計学、社会学など多肢に渡ります。授業の大半は大教室での講義と小教室での演習が1セットとなっています。

● プロジェクト

1年次、2年次ともに通年のプロジェクトがあります。100近いテーマの中から同じテーマを選んだ学生と6人ほどでチームを組み、時には企業と協力して、プロジェクトマネジメント、プレゼンテーションの方法など実践的なことを学びます。

● インターンシップ

1年次の終わりに1ヵ月以上、現場作業のインターンが義務付けられており、2年次の終わりは3ヶ月以上のインターンを行います。インターン先はインターネットの公募で探したり、直接企業に問い合わせたり、合同フォーラムを活用したり、学校に来る募集を参照したり、友人の紹介、三田会のOBに頼るなど様々です。外国人留学生は、企業ではなくECを含めた大学などの研究機関で研修を行うことも可能です。

[キャンパスライフ]

● イベント

学生団体によって各種イベントが催され、新入生歓迎と称した大型バスでの小旅行や、卒業式に合わせてGALAと呼ばれる盛大なパーティーが城で行われます。その他にも、アルプス登山やスキー、コンサート、校内パーティーなど多くのイベントがあります。

● 旅行

フランスの中心部に位置するリヨンからは、イタリア、スペイン、スイス、東欧などに気軽にアクセスできるので、年間数回ある1～2週間の休暇を利用してヨーロッパ各国を旅行することも可能です。留学2年間の機会を利用して多くの国を巡ることができます。

● スポーツ

1、2年生では体育が必修となっており、バスケット、サッカー、ハンドボール、テニス、水泳、バレーなど多くの種目があります。最も強いチームに所属すると、パリやマルセイユまでの遠征試合に行くこともあります。また、年一回開催されるグランゼコール対抗のスポーツ大会で、EC-Lyonは毎年多くの種目で好成績を残しています。

● クラブ活動

音楽、ダンス、スポーツ、スキー、映画、登山、写真、さらには、日本クラブ、中国クラブ、ラテンクラブなど、勉強から離れて気分転換する場も十分に用意されています。

● 日常生活

1年生はほぼ全員、2年生も半分がキャンパスの寮に住みます。部屋にキッチンがついた寮と、共同キッチンの寮の2種類から選ぶ事ができ、家賃も異なります。食事は昼・夜ともに学校の食堂を利用できますが、フランス人の多くが夜はキッチンで自炊しています。共同キッチンの寮では、毎週木曜日にパーティーが開かれるので、先輩たちと縦のつながりを感じることができます。

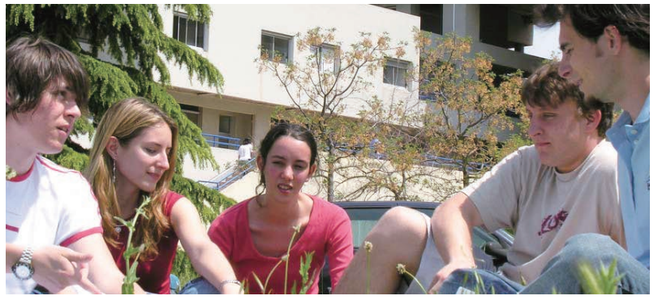
※本文は派遣生の報告によるものです。

Centrale Méditerranée

サントラル メディテラネ

マルセイユは地中海に面し、リヨンと並んでパリに次ぐフランスを代表する大都市です。一年を通して天気が良く、雨もほとんど降らない温暖な地域にあります。古くからの港街であり、商工業の中心地として発展してきました。豊かな自然に恵まれ、スペイン・イタリアとも近く、フランス国内のラテン系文化圏の中心といえるでしょう。他の都市と同様、周辺は研究所や企業が集積しており、リサーチコンプレックスを形成しています。旧港には、地中海とマルセイユの町並みが一望できるファロ公園があり、その近くではスキューバダイビングが楽しめます。パリへはTGVで3時間、周辺国への夜行バス・電車が発着しています。南仏の観光地へのアクセスがよく、フランスの秘境といわれるコルシカ島への定期船もあります。

従来のマルセイユキャンパスに加え、2022年ニースに新しいキャンパスが設立され、EC-MarseilleからCentrale Méditerranéeへ名称変更しました。1年生はマルセイユキャンパスで学び、2年次からはニースキャンパスでの科目も選択できます。教師と生徒が一体となってより良い学校にしていくための活動が盛んな、躍動感あふれる学校です。キャンパスは街の中心地からメトロで15分程です。数学、情報、物理、化学、経済に至るまで幅広い分野を習得でき、特に化学に強みがあることでも有名です。1学年の学生数は約300人と小規模なので、先生方も学生同士もすぐに顔なじみになれます。授業で分からないところがあれば、先生も学生もとても丁寧に教えてくれます。



企業研究などの授業も盛んで、マルセイユ近郊の企業見学や技術者へのインタビュー、生徒主体の企業Forumなどを学校で開催しています。また1年生の終わりから2年生の終わりまで約1年掛けて行うプロジェクトに必ず参加します。教育理念で重要視されている「産業界との繋がり」「実学の経験を積む」を実感することができるでしょう。学校の周りにはたくさんの研究施設があるので、授業の一環としてその施設を見学したり、そこで実験したりすることも多くあります。2年目のインターンシップをこういった研究施設で行うことも可能です。

[キャンパスライフ]

生徒会によるソワレ（大人数のパーティー）等の企画、スキークラブ主催のアルプスへのスキー旅行などがあります。年度はじめには、ヨーロッパ内の他都市への旅行も企画されています。毎週水曜日には生徒会運営による学生や教員向けのBarが校内で開店しています。クラブ活動も非常に盛んで、運動系から文科系までたくさんのクラブがあるので、自分に合ったクラブを見つけることができます。マルセイユという土地柄を生かしてマリンスポーツのクラブが多いのも特徴です。旧港には大学のヨット部が使用しているものもあります。

※本文は派遣生の報告によるものです。

École Centrale de Nantes

ECナント

ブルターニュ半島の付け根に位置するナントの街は、フランス国内で第６番目の人口を誇るロワール地方最大の都市です。ブルターニュ公国時代の面影を残しながらも近代的な街並みを持ち、フランスでは最も住みやすい街と言われています。古くから造船業が栄え、近年もエアバスの飛行機胴体工場など大企業の進出が盛んです。最近は造船所の跡地などにアーティストの活動を支援する工房が多数建設されるなど、文化芸術都市としての性格を強めています。

EC-Nantesは中心街からトラムで約15分のところにあります。周りには商業系グランゼコールAudenciaやナント大学もあり学生の多い地域です。学生数は1学年400人ほどと少なく、1年生は約30人のグループに分けられています。学生人口の約43%が留学生です。授業は、演習・実験とグループで行動する機会が多いため、グループのメンバーとすぐに仲良くなれます。また先生との距離も近いので、積極的に質問に行けば丁寧に教えてもらえます。ダブルディグリー生は1年次は学校に併設された寮で1人暮らし、あるいはフランス人とルームシェアをします。学年のメンバーの殆どが寮に住んでいるため、勉強や生活で何か困ったことがあったらすぐに助けてもらえます。

1年次は授業のほとんどが必修で、「ジェネラリストの養成」というEC 共通の理念に基づき、力学、情報、制御、環境問題、数学、ソフトスキル（マネージメント・コミュニケーション・CSR）、語学、体育など幅広い分野を学べます。2年次は、海洋工学、ロボティクス、AI、情報システム、航空工学、エネルギー、産業システム、土木など22の多様なオプションから1つを選び、より専門的な学びを深めていきます。また、講義と試験といった受け身の授業だけでなく、自ら発表する機会も多く、プレゼンテーションのスキルも鍛えられます。1年次にはプロジェクトとして約半年間、企業から出された課題にグループで取り組みます。インターンは、1年次と2年次にあり、1年次のインターンは職場を経験することを目的として、夏休みの間に4 週間以上行います。2年次のインターンは期間が約5か月と長くなり、エンジニアとしてのプロジェクトを請け負わなくてはなりません。インターン先はフランスに限らず、全世界に視野を向けて探すことが可能です。さらに2年間で100時間（以上）のボランティア活動が必須となります。

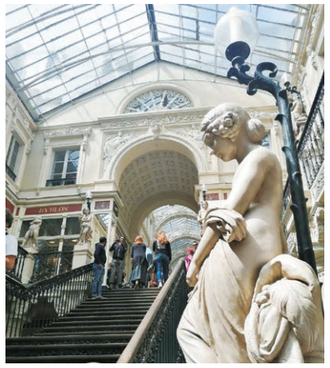
[キャンパスライフ]

● クラブ活動

サークルの種類は多様で、ほとんどの学生がBDE（生徒会）BDS（体育会）・BDA（芸術会）、またはサークルに属しています。特にスポーツサークルが活発で、グランゼコール対抗戦や全国大会への出場もあります。また日本人学生とECナントの学生の交流を深めるためのサークル「クラブジャパン」もあり、日仏の文化をテーマにしたイベントを開催しています。ナントの日本人留学生を支援する団体もあります。

● 旅行／イベント

フランス周辺国へ行くバス旅行、9 月の新歓合宿（Week-end d'intégration）、GALA、スキー旅行、各国パーティーなどがあります。EC-Nantesでは２～３月に慶應義塾大学の学生向けに語学研修があり、毎年、様々な学部の学生を６週間受け入れています。その際ダブルディグリー生も学生交流などに関わります。また、フランス人学生、日本人学生と共にソワレジャポン（日本パーティー）を企画することもあります。



※本文は派遣生の報告によるものです。

CentraleSupélec

サントラルスペレック

1年目は数学、力学、制御、情報、経営、統計といったエンジニアとしての基礎科目を、2年目は法律、哲学などやや文系寄りの科目も必修として学びます。こうしたジェネラリストとしての幅広い分野を学ぶカリキュラムと並行して、6から8週間の期間でAcademic Terms（SG）と Engineering Challenge Term （ST）が交互に設定されており、より専門性の高い選択授業を履修します。STは、1年目はModelingとInformation、2年目はFunctional Modeling and RegulationとOptimizationをテーマとし、実社会の課題へ個々の科目で習得した知識やスキルを活かして取り組みます。2年目は配属キャンパスに応じたより専門性の高い選択科目が用意されています。英語教育に対しても力を入れており、英語で行われる授業があることに加え、学位取得の条件として IELTS 7.5点が課せられています。

● プロジェクト・ワークショップ

企業やその他の団体との共同で、1年を通して1つのプロジェクトに参画します。1年目、2年目ともに情報、生物、物理、数学、経済、教育、学生団体補佐などの幅広いテーマから選ぶことができ、各テーマはさらに細かなプロジェクトから構成されています。ワークショップ（API）は2年間を通じて行われ、エンジニアとして働くためのスキルを学ぶことができます。

● インターンシップ

1年目の終わりから2年目の授業が始まるまでの夏休み期間中、最低5週間のインターンシップが義務付けられています。（2年目のインターンシップは義務ではない）このインターンシップは、Stage ouvrierと呼ばれ、デスクワークではなく、メーカーの製造ライン業に実際に立って、作業員と同じ業務をこなすものに限定されています。勤務地に制限はないため、留学生を含む全学生が世界に散らばりインターンを行います。

[キャンパスライフ]

Paris-Saclayをメインに、Rennes、Metzの計3つのキャンパスがあります。留学1年目はParis-Saclay に通い、2年目も多くの留学生がここで過ごすようです。2年間を通して寮以外に住むことも可能ですが、多くの学生が、所属キャンパスの寮で生活をしています。

※本文は派遣生の報告によるものです。

留学体験記

宇田川 善太

[留 学 先] CentraleSupélec
[派遣期間] 2022年9月～2025年9月

慶應義塾大学理工学部
物理学科（派遣時）

私はフランスのパリ郊外にあるサントラルスペレック（CS）との学部ダブルディグリープログラムに参加しました。慶應義塾大学入学時に、第2外国語としてフランス語の学習を始め、学部3年次からフランスのエコールサントラルに留学する機会があることを知りました。フランスからの留学生との交流の中で刺激を受け、大学生活の中で挑戦をしたいと思いプログラムに応募することを決めました。

留学先のCSはエンジニア養成学校であり、1・2年次を通して幅広い理工学の勉強を行います。またジェネラリスト育成の側面にも重きを置いており、経済学や哲学の授業も必修であることも特徴の一つです。CSの学生は、入学前にグランゼコール準備学級と呼ばれる学校で2年間数学と物理を重点的に学習しています。そのため、授業内では数学の知識を用いた内容が多く、板書にはたくさんの数式が並びます。またCSでの授業の特徴として、講義と演習の授業が交互に行われることが挙げられます。例えば統計学の1時間半の講義の後、講義内で習った公式や定理を参照して、学生がその場で問題演習を行います。その後、わからなかった部分や別解について教員の方々と議論します。始めは問題を理解するだけでも難しかったですが、慣れていくうちに自分で手を動かして問題を解くことで理解が深まるのを実感しました。

CSでの1年間は大きく4つの学期に分けることができ、それぞれの学期末に試験があります。また通年の数学の授業もあるため、1か月に1-2回は期末試験があります。そのため1年次には、準備学級を経て入学した学生たちからも、勉強が大変だとよく耳にしました。1年目は勉強の内容を十分に理解できないことが多くありましたが、2年目にはようやくフランス語に慣れ、学習内容や議論の面白さに気づきました。

2年次には、1年次と比較して選択授業の自由度が増し、自分の興味のある分野の授業を受けることができます。私は物理学に興味があるため、“Lumière et matière” （光と物質）という物性物理学の授業を選択しました。この授業内のプロジェクトは、学校の隣にあるSoleilと呼ばれるシンクロトロン加速器研究所の協力のもと行われました。その内容は、高分解能電子顕微鏡のモデルを20人の学生グループで作成するというものでした。このプロジェクトの中で最も印象に残っていることは、全員が自分の意見を持ち、強く主張することです。グループ内の学生全員が議論を始め、それぞれが納得するまでとことん話し合いが行われました。私はグループリーダーを担当しましたが、プロジェクト開始当初は初めての議論の仕方に慣れず、全体の取りまとめに苦労しました。しかし、自分の意見を伝え合うことで議論が深まっていくことを改めて強く感じ、私もためらわずに議論に参加することができました。最終的にはグループ全体が満足のいく結果となりました。

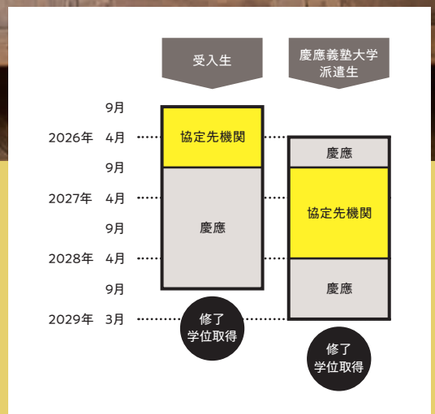
学業以外の学校生活においては、留学先で日本クラブを設立しました。CSには他の国の留学生は多いのですが、日本からの留学生は最初の2年間は私のみ、最後の1年間は2人でした。そのため日本文化について紹介する良い機会だと思い、興味のあるフランス人学生や他国からの留学生とともにクラブを設立しました。活動としては、他の学生たちに日本文化や日本食を広める活動（おにぎりワークショップ、抹茶試飲会など）を行いました。

そして、今回の留学を通して多くの心優しい方々に会うことができました。夏休みやクリスマスに自宅に招待してくれた友人のおかげで、フランスでの生活を豊かに送ることができました。ダブルディグリープログラムに参加したことで幅広い分野の学習をできたことはもちろんですが、学業以外にも特別な経験ができたと感じています。フランス人の方々はもちろんのこと、世界各国からの留学生とも交流を深めることができた、かけがえのない留学経験となりました。

大学院生対象 ダブルディグリープログラム

Université Catholique de Louvain(UCL)
Université libre de Bruxelles(ULB)
Institut Mines-Télécom(IMT)
MINES Paris
RWTH Aachen University
Leibniz University Hannover(LUH)
Technical University of Munich(TUM)
Politecnico di Milano(PoliMi)
Universidad Politécnica de Madrid(UPM)
KTH Royal Institute of Technology

修士課程の最初の春学期を慶應で、続く1年半を派遣先で、さらに帰国後に1年間を慶應で提供されるカリキュラムを修めることで、合計3年間の課程で2つの学位（いずれも修士）の取得を可能とするものです。
使用言語は英語（一部の派遣先では現地語）です。
理工学研究科入学予定者が応募できます。



このプログラムは欧州の理工系高等教育機関のネットワークである、T.I.M.E. Association（Top International Managers in Engineering）の推奨する方式に準拠しています。T.I.M.E. Association は、欧州域内の2つの文化圏で2つの言語を駆使して活躍できるエンジニアの育成を目的として、修士課程におけるダブルディグリープログラムの運用を行う理工系高等教育ネットワークとして設立されました。
1989年に16の大学によって最初のグループが構成されてから、その考え方に賛同する大学が順次集まり、現在では欧州内外の多数の機関が参加しており、これまでに欧州全域で多数の修了生を輩出しています。慶應義塾大学は2005年に開始したエコールサントラルとのダブルディグリーをきっかけとして、2007年に東北大学と並んで日本の大学として初めて加盟を果たしました。

T.I.M.E. Associationのウェブサイト
timeassociation.org/

［ 大学院生対象DD派遣実績 ］

	2015	2016	2017	2018	2019	2021	2022	2023	2024	2025
UCL	1	1	-	-	-	-	1	-	1	2
ULB	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-
IMT	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-
RWTH	1	1	-	-	-	1	1	1	1	-
Hannover	-	-	-	1	1	-	-	-	-	1
TUM	1	-	-	1	-	-	1	-	1	-
PoliMi	4	3	1	-	2	-	-	3	-	5
KTH	1	1	2	2	3	3	3	1	3	2
Lund	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
total	10	6	4	4	6	4	6	5	8	10

※2020年度は、新型コロナの影響で派遣中止となりました。
※Lund Universityへの派遣は2022年に終了しました。

Université Catholique de Louvain
ルーヴァンカソリック大学

Louvain School of Engineering（工学部）はEPLと呼ばれています。ルーヴァンカソリック大学は、ブリュッセルから電車で40分ほどの場所にあるLouvain-la-Neuveという学園都市にあります。駅周辺には、広場があり、公園・美術館・ショッピングセンター・映画館・劇場・カフェ等の他人工湖があります。大学を中心として計画的に作られた町で、治安も良いです。UCLouvainの学生は一人部屋（Studio）または、共同生活（Kot）から住居を選ぶことができ、いずれも家具が備わっています。多国籍な学生に囲まれた寮での共同生活もUCLouvainの大きな魅力の一つです。

［ 募集内容 ］

- **募集分野**　Engineering 全般
- **履修計画**　ルーヴァンカソリック大学では以下の分野のマスタープログラムがあります。

Biomedical Engineering /Chemical and Materials Engineering / Civil Engineering / Computer Science and Engineering / Data Science Engineering / Electrical Engineering /Electro-mechanical Engineering /Energy Engineering / Mathematical Engineering / Mechanical Engineering / Physical Engineering / Computer Science / Cybersecurity / Data Science: Information technologies

Université libre de Bruxelles
ブリュッセル自由大学

ブリュッセル自由大学（ULB）は、ベルギー王国の独立直後である1834年に創設された、7学部・7研究所からなる総合大学です。
工学部はÉcole polytechnique de Bruxelles（EPB）と呼ばれています。また、ULBのEPBとブリュッセル自由大学（VUB）が共同で設置するBrufaceでは、英語で開講されるコースで学ぶこともできます。ブリュッセルは、中心部が世界遺産に登録されている美しい都市であり、EU本部をはじめとする関連機関が置かれる「EUの首都」として国際色豊かな環境が魅力です。

［ 募集内容 ］

- **募集分野**　Engineering 全般
- **履修計画**　ブリュッセル自由大学では以下のマスタープログラムに参加できます。

Electromechanical Engineering ／ Computer Science and Engineering ／ Architecture and Engineering ／ Biomedical Engineering ／ Civil Engineering ／ Chemical and Materials Engineering ／ Physical Engineering ／ Electrical Engineering

※本文は派遣生の報告によるものです。

Institut Mines-Télécom
国立高等電気通信学校

IMTと略されるInstitut Mines-Télécom（国立高等電気通信学校）は
1996年に設立されたフランスの経済産業省管轄の工業系グランゼコールの連合体です。
理工学研究科とは、2007年に学術交流協定、2013年にダブルディグリー協定を締結し、
派遣先は以下2校です。

● IMT Atlantique　IMTアトランティック

Information Technologies／Management and Optimization of Supply Chain and Transport ／Project Management for Environmental and Energy Engineering に関するマスターコースを設置しています。キャンパスはフランス西部（Brest, Nantes, Rennes）にあります。夏にはフランス語短期研修も開催され、毎年塾生が参加しています。

● MINES Saint-Étienne　MINESサンテティエンヌ

Cyber-Physical Social Systems／Materials Science and Engineering に関するマスターコースを設置しています。アルプスに近いフランス中南東部 Saint-Étienneと南部プロヴァンス地方のAix-Marseille-Provenceにあります。

MINES Paris
パリ国立高等鉱業学校

元来は鉱業を専門とするエンジニア育成教育機関でしたが、
現在はあらゆる工学系の分野を対象とする工学系グランゼコールの名門校であり、
現在でも入学難易度が高いことで知られています。
本学とは2011年に理工学研究科とのダブルディグリー協定を締結しました。
パリ中心部のリュクサンブール公園に隣接した敷地にあり、交通はいたって便利です。
授業はフランス語で行われるため、選考の時点である程度のレベルの
フランス語学力があることが必要となります。
ENSMPでは、フランス語による学習ですが、ダブルディグリー取得のための
条件（取得単位数等）はT.I.M.E. Association メンバー校と同様となります。
パリ国立高等鉱業学校が実施する入試（筆記試験）を受けるために、
出願希望者は留学開始（X年9月）の前年の7月まで（X-1年7月）に
学生課国際担当に相談してください。

※本文は派遣生の報告によるものです。

RWTH Aachen University
アーヘン工科大学

ドイツ最西端の街アーヘン市は人口約26万人の中都市です。オランダ、ベルギー、ドイツの3国が隣接する国境地区にあり、歴史上ヨーロッパの最重要都市の一つに数えられています。アーヘン大聖堂（ドイツ初の世界遺産）、温泉は有名です。また、11下旬から開かれるクリスマスマーケットは国内でも有名で、毎年多くの人でにぎわいます。

1870年に創設されたヨーロッパでもトップレベルの大学で、特に自然科学と工学の分野で有名です。慶應義塾との交流の歴史は古く、
特に理工学部との間では1956年より学術教育交流があります。2007年度より理工学部生を対象とした夏季在外研修が実施され、
2013年度にMechanical Engineering（ドイツ語で開講）ならびにElectrical Engineering and Information Technologyの分野で
ダブルディグリープログラムが始まりました。約14,000人、141ヵ国を超える国々より集まった留学生が学んでいる国際色豊かな環境です。
アーヘン工科大学はアーヘンの街全体がキャンパスで街中に大学の建物が点在しています。街のほぼ中心部にあるCampus Mitteには
メインビルディング、最大のホール、スポーツ複合センターなどがあり、Campus Westは、情報科学科・歴史や政治学科の建物、
中心街から少し外れたCampus Melatenには化学科、物理科、電子工学科などの建物があります。

［ キャンパスライフ ］

アーヘンはこぢんまりとした住み心地の良い街です。学生は自分一人で部屋を借りたり、WGといったルームシェアをしたり、寮に入るなど様々です。アーヘン工科大学に所属している学生は、ドイツ全土の公共交通機関に無料で乗ることができ、近隣の大都市ケルンやデュッセルドルフにも気軽に遊びに行くことができます。

［ 募集内容 ］　**● 募集分野**　Mechanical Engineering ならびに Electrical Engineering and Information Technology

Leibniz University Hannover
ライプニッツ大学ハノーファー

ドイツ北部ニーダーザクセン州は、自動車、農業、食品、石油・天然ガス採掘、化学などが主要産業です。首都のハノーファー市には生産分野とレーザー技術分野における研究所が集中し、ドイツの保険業界における主要拠点の一つでもあります。同州ヴォルフスブルク市はフォルクスワーゲン社の拠点でもあり、この地域では昔から自動車や機械工学系の企業が多くあります。また、毎年開催されるハノーファー・メッセやCeBITなど、世界最大規模の見本市の開催地としても国際的な評価を得ています。

ハノーファー大学は、1831年に創立、ドイツにおいて最も由緒ある理工系大学の一つであり、自然科学、工学、人文科学等9つの学部があり、
約3万人の学生が学んでいます。慶應義塾大学理工学研究科とは、10年以上に渡って学生交流の実績があります。2017年度には慶應義塾大学と
学術交流協定を締結し、2018年度には新たに理工学研究科とのダブルディグリープログラムを開始し、以降長く学術交流があります。
講義は全て英語で行われます。最初の1学期は基本的に6つの講義（必修3、選択3）があり、多くの授業は週に2コマ（1コマが講義、もう1コマが演習）に
なっています。講義の情報取得や質問等は全て大学のイントラネットを通して行われ、3ヶ月のインターンシップが必須になっています。

［ キャンパスライフ ］

ヨーロッパの交通網の中心部に位置するハノーファーは、公共の移動手段（電車、地下鉄、トラム、市バス）が整備されており、ライプニッツ大学の学生証の提示により無料で利用できます。空港もあるため、各都市へのアクセスも便利です。メインキャンパスの近くにはスポーツ複合施設があるほか、大学の食堂の食事は学生のお財布に優しい価格設定になっています。食品スーパーにはアジア食品のコーナーがあり、品揃えも良く食生活には困りません。

［ 募集内容 ］　**● 募集分野**　Mechanical Engineering

※本文は派遣生の報告によるものです。

Technical University of Munich
ミュンヘン工科大学

ミュンヘンはドイツ南東部に位置するバイエルン州の州都で、古くからドイツの文化・芸術都市と言われていますが、近年はハイテク産業・自動車産業が盛んで、ジーメンスやBMWなど大企業の本社があります。オクトーバーフェスト、クリスマスマーケットも有名です。

ミュンヘン工科大学は、1868年に創立、多数のノーベル賞受賞者を輩出するドイツにおける名門大学です。
2007年に慶應義塾大学と学術交流協定を締結し、2011年に物理学の分野で理工学研究科とのダブルディグリープログラムを開始しました。
学生数は約48,000人、うち約4割が海外からの学生です。キャンパスは4つに分かれており物理学科のあるガーヒングキャンパスには
GEなどの企業やマックスプランク研究所など、世界一流の研究施設が集まっています。物理学科のマスタープログラムには、
英語で実施されるApplied Enginerring Physics、ドイツ語で実施されるCondensed Matter Physics、Nuclear, Particle, and Astrophysics、
Biophysics があり、必修科目を除けば他のプログラムの授業も自由に取ることができます。
1科目5ECTSで、90分の講義と60～90分の演習がセットになっています。皆が積極的に授業に参加し、教授にも質問しやすい雰囲気です。
なお、ドイツ語のプログラムに属していても、ドイツ語での授業を選択しなければ全て英語で受講できます。
授業資料はオンライン上に掲載されるため、復習に役立ちます。試験は学期末に1ヶ月程度にわたって4~7つほどあり、多くは口頭試問で行われます。

[キャンパスライフ]

ミュンヘンは治安が比較的良いです。ミュンヘンで部屋を探すのはとても難しく、ドイツ人学生の多くはWG（アパートシェア）を利用しています。休日は映画やコンサートに出かけたり、近隣都市へ小旅行ができます。特に、TUMiという学生団体が毎週末イベントを企画（ボードゲーム、映画上映、期間限定の屋台出店など）していて、多くの留学生が参加します。

[募集内容]

● **募集分野** Physics (Master of Science) ※学部にて物理学科もしくは物理情報工学科に所属していること

Universidad Politécnica de Madrid
マドリード工科大学

マドリード工科大学は、18世紀に開校した工学と建築学を専門とする二つの技術学校が合併して、1971年に創立されました。
スペインのマドリードに位置するスペインを代表する名門工科系大学です。現在は市内に位置する4キャンパスから成り立っており、
ダブルディグリーの学生は、コンピュータサイエンス・エンジニアリングなど理工学系のあるシウダット・ウニベルシタリア・キャンパスか、
市の中心部に位置するインダストリアル・メカニカル・エンジニアリング機関があるカステラーナ・キャンパスに通うことになります。
両キャンパスは地下鉄で3~4駅の距離です。首都マドリードは行政の中心地であり、イベリア半島の経済の中心都市です。
市内には王宮や大きな公園、歴史ある建物が調和しつつ存在し、闘牛、フラメンコ、サッカー観戦などを楽しむこともできる魅力ある場所です。

[キャンパスライフ]

マドリード工科大学の授業は、午前8：30～14：30と午前15：30～21：30（1授業50分、休憩10分）に分かれており、クラスによっては2限連続のものもあります。授業は講義形式だけではなく、実技を勉強するために実験を行うこともあります。学生は大学学科や研究室でインターンをすることも可能で、給与を得ながら研究をより深めることができます。

Politecnico di Milano
ミラノ工科大学

ミラノ工科大学は1863年に設立されたイタリア・ミラノにある国立大学です。
イタリア国内および世界でも指折りの名門工学系大学で、エンジニア、建築家、
工業デザイナーを育成する高等教育機関であり、
世界レベルで行われる研究活動も産業界との密接な関係があります。
当校は、1989年 T.I.M.E. Association 設立時からのメンバー校です。
慶應義塾大学とは2008年に包括協定が締結され、2011年度から
ダブルディグリープログラムを開始しました。
現在、EU内、北米、アジアなどの高等教育機関との国際連携を強めており、
学部・修士レベルでの英語によるプログラムの数も増えています。
キャンパスはミラノを含め7都市に点在し、ミラノ市内には、大学で最も古い
Leonardoキャンパス（ミラノ中央駅から約2km、電車で約10分）、
近代的建物のBovisaキャンパス（ミラノ中央駅から約5km、電車で約20分）があります。
Bovisaキャンパスは、ミラノ国際空港から鉄道での直行が可能です。

※本文は派遣生の報告によるものです。

KTH Royal Institute of Technology
スウェーデン王立工科大学

スウェーデンの首都ストックホルムはバルト海に近く、入り組んだ地形のなかで14の島から構成され、北の水の都と呼ばれています。750年以上の歴史がある旧市街がある一方、現在の市中心部は活気あふれるビジネス街となっています。市内にはいたるところに公園があり、新緑の季節には市民が屋外で日光浴をする光景が見かけられます。

スウェーデン王立工科大学（KTH）は、スウェーデンの首都ストックホルム市中心部近くにある高等教育機関です。
大学の規模は大きく、13,000人以上の学生の教育・研究を、4,000名ほどの常勤教職員が担っています。
教育・研究分野は多岐にわたり、自然科学からあらゆる工学分野、建築、IE、経営工学、都市計画、
環境工学などを網羅し、国や民間の研究機関との共同研究も盛んで、ストックホルム大学をはじめ市内の
他大学との共同プログラムも数多く開講されています。分野によってはストックホルム市外のキャンパスで
研究活動が行われています。スウェーデンはEUの中でも国際交流が極めて盛んです。
研究・教育における国際連携には特に力を入れており、KTHの博士論文の審査では外国の大学から著名な研究者を
審査員に招聘して行われています。英語で開講されるコースが豊富であり、多くの留学生を受け入れています。
また、留学生のための導入プログラムやスウェーデン語講座、課外プログラムなども充実しています。

[キャンパスライフ]

学生は国からの助成により厚遇されておりますが、スウェーデンに限らず北欧は税率が高く、物価は比較的高めです。

※本文は派遣生の報告によるものです。

修了生の声

石橋　璃乙

［留　学　先］Politecnico di Milano
［派遣期間］2023年8月～2025年3月

慶應義塾大学大学院理工学研究科
基礎理工学専攻 修士課程

PoliMiで Computer Science and Engineering を専攻しました。PoliMi はイタリアで最もランキングが高く、100カ国以上から留学生を受け入れているグローバルな大学です。留学生活は密度の濃いもので、大変さも楽しさも100%でした。授業は各科目につき年間を通して5回試験を受けられる制度になっています。そのため、一つ一つの試験の合格率は低く、点数が足りるまでは受け続けなければなりません。私は2学期分授業を履修し、最後の学期は研究と残っていた試験の勉強をしました。試験勉強中は一日中図書館に篭っていましたが、学期中や休暇中はヨーロッパを旅行し、友達と遊ぶことが多かったです。休暇中は友人の母国へ遊びにいったり、週末は頻繁にハウスパーティーやドゥオーモ周辺でアペリティーボ(軽食会)をしたりしました。今も交流は続いていて、日本に遊びに来てくれています。私にとって、留学したことが大きな財産となっています。少しでも留学が気になっている方は挑戦してみてください！

留学生活の平均的な1日の生活

平日

- 7:00 起床
- 9:00 学校のジム到着
- 11:00 自習室
- 12:00 昼食
- 13:00 自習室
- 18:00 近所のスーパーで買い物
- 19:30 帰宅
- 20:00 夕食・片付け
- 21:00 勉強・自由時間
- 23:00 就寝

安く、レッスンも豊富
2年目は研究と試験勉強をしていました
お弁当を持参している人がほとんど
会話OKなので友達と協力も可能
アジアン食材は中華街のスーパーにあります

休日

- 9:00 起床
- 13:00 昼食
- 14:00 勉強・自由時間
- 20:00 夕食
- 24:00 帰宅
- 25:00 就寝

掃除、洗濯、作り置きは休日に行います
ドゥオーモで買い物、ミラノ散策、カフェでエスプレッソなど
友人とアペリティーボや家で集まり
市内は公共交通機関が充実しているので便利
長い休暇にはヨーロッパ各地へ旅行しています

修了生の声

荻原　辰弥

［留　学　先］KTH Royal Institute of Technology
［派遣期間］2022年8月～2024年3月

慶應義塾大学大学院理工学研究科
開放環境科学専攻 修士課程（派遣時）

私は約1年半にわたってスウェーデンに滞在し、帰国後の研究活動を経て、慶應・KTHの両修士号を取得しました。KTHは世界的に高く評価されている理系大学の1つであり、質の高い授業や研究に携わる環境が整っています。世界中から優秀な学生が集まるため、多様な文化に触れることもできました。授業期間中は学業に集中する日々が続きますが、休暇期間にはヨーロッパ各地を旅行するなど、充実した留学生活を送ることができました。以下では、ダブルディグリー留学を成功させるために重要だと感じた点を2つ紹介します。

Point 01 » 留学の目標を出願前に明確にすること

何の授業を履修するかに大きく左右されますが、留学先では（良い成績を目指すのならば）基本的に毎日朝から晩まで図書館に籠る勉強漬けです。全力で勉強しているのに課題が全く解けずに心が折れそうになるときもあるでしょう。また、せっかく海外にいるのに遊ぶ暇が限られていることにも気づくと思います。そんなときには、留学の目標は何だったのかを振り返ってみることが挫けそうな心の助けになります。そのためにも、出願前に留学の目標をしっかりと考えておきましょう。留学の目標は人によって全く異なると思います。例えば私の目標は将来のキャリアのために高度な英語力を習得し、数学とコンピュータに関する知識を身につけることですが、人によっては勉強よりも留学先での国際交流を楽しむことに重点を置いている人もいると思います。重要なのは、自分なりの留学の目標をしっかりと定めることです。

Point 02 » 留学先での履修計画をしっかりと立てること

専攻・履修する授業によっても大きく左右されますが、KTH での授業は慶應と比較して難易度が高く応用的な内容まで踏み込むと感じています。そして授業の進度も早く、課題も多いです。留学に向けて入念な調査に基づいた履修計画を立てることが重要です。また、出発前に準備できる英語力や前提知識を備えつつ、リフレッシュ方法を考えておくことも充実した留学に向けて大切な準備だと思います。

留学体験記

草壁　慧

［留　学　先］RWTH Aachen University
［派遣期間］2023年 9月～2025年3月

慶應義塾大学大学院理工学研究科
開放環境科学専攻修士課程（派遣時）

私は、2023年から9月から2025年3月まで、大学院ダブルディグリープログラム（以下DD）を利用して、ドイツのアーヘン工科大学に留学していました。私はもともと大学に入って留学をすることを志していました。コロナ禍で閉鎖的な世の中が続く中、軽く国際交流をするようなつもりで学部3年次に参加したアーヘン工科大学のサマースクール（当時はオンライン開催）で、研究規模の大きさを目の当たりにし、機械工学で定評があることも相まって、アーヘン工科大学へのDDを目指すようになりました。

アーヘン工科大学では、最初の1年から1年半で授業をとり、最後のセメスターで修士論文に取り組むことになります。授業は講義と演習がセットになっており、扱う内容が多く、計算量の多い問題が演習として課されるので、実際に解いたり、復習をしたりするのに時間を要しました。また、機械工学科の授業はもちろん理論を徹底的に行う授業もある一方で、エンジニアを養成できる様な実践的な計算を含んだ問題を多く出す印象がありました。例えば、文字で答えを表すのではなく、実際に数字を当てはめて数字で解答する、といった感じです。また、アーヘン工科大学の機械工学コースはドイツ語開講であったため、2割くらいの授業をドイツ語でとりました。最初の学期はドイツ語に全然ついていけず、精神的に辛かったですが、次の学期では別のドイツ語開講の講義の内容がわかる様になっており、成長を感じました。さらに、試験に向けて、時間をかけて理解し、演習するというプロセスを改めてやったことで、自分の研究分野の理解も深まったと感じています。

試験期間はとても大変でした。試験はボリュームが多いので、過去問を繰り返し解いたり、理論の確認をしたり、十分な練習をしたりして臨みました。最後のセメスターでは、研究室に配属して、修士論文の研究に取り組む形でした。慶應の研究室でやっていることと繋がってはいるものの違う分野のトピックを選んだことで、研究をする際の視野が広がっただけでなく、博士課程の学生と距離が近く日々研究ができたことで、研究に対する姿勢はとても勉強になりました。

授業後や週末では様々なことをしました。毎週土曜日の昼は、友人たちと見つけた隠れ家のようなイタリアンレストランでワインを飲みながら、アンティパスティやパニーニを食べて昼から夜まで語り合う、というのが日課でした。他にも韓国語を学習している人と韓国人が集う会があり、韓国語の学習に挑戦したりもしました。夜はバーでいろんなカードゲームをしたり、ビリヤード、ダーツをしたりして楽しみました。アーヘン工科大学で有名な毎年開催のUnicupというアイスホッケー大会もありました。この大会はとても人気で、チケットを買うために朝4時半にキャンパスを全速力で走ったのは良い思い出です。また、少しまとまった時間があったときには、ヨーロッパ諸国を旅行しました。

アーヘンでの学生生活では、自分に足りない部分を自覚すると同時に、それを鍛えられる機会が多くありました。語学力だけでなく、物事を多角的に捉える視点やディスカッション能力です。自由に発想し臆せず意見を述べることは意識してきましたが、留学生活の中で日々試され、まだ不十分だと実感しました。特にドイツの学生との日常会話や社会問題の議論を通じて、多様な視点を取り入れながらスピーディーに議論を展開する姿勢に触れ、自身を鍛えることができました。これらは研究においても重要であり、今後も磨いていきたいと考えています。

アーヘンでの留学を振り返ると、研究や勉強のことだけでなく、多くの他の様々なことを学びました。自分が勝手に仮定していた当たり前を考え直し、自分の存在がどのようなものなのかを留学を通じて真剣に見つめなおすことができました。留学を目指している方は、ぜひ迷わず挑戦してほしいなと思います!

応募から選考まで

出願スケジュール（参考：2026年度派遣）

出願期間	第1次選考（書類選考）合格発表	第2次選考（日本語面接）	最終選考（外国語面接）	最終選考合格発表
1月中旬～2月初旬	2月下旬	3月初旬	3月中旬～下旬	3月中旬～4月初旬

2027年度の応募要項および出願スケジュールについては、2026年12月頃に理工学部国際担当ウェブサイトに掲載する予定です。

留学のための費用

授業料	留学期間も含め、慶應義塾の学費を支払います（学部DD：学部4年半＋修士2年、院DD：修士３年） 派遣先における入学金・授業料は免除となります。
滞在費	寮費：€200～800/月、食費：€200～300/月、交際費：€100～200/月
渡航費等	休暇中は比較的安く欧州内を移動して旅行を楽しむ学生が多いです。
保険	万が一の事故や病気に備え、留学中のすべての活動を適用範囲とする本学指定の海外旅行保険への加入が必須です（約15万円/年）。国や大学により現地での社会保険に加入する可能性があります。
その他	ビザ取得費などの渡航準備費の他、現地では、協定校により、フランスの大学は生徒会費、ドイツの大学はSemester Fee（在籍期間を通して）を支払う場合があります。

※過去の派遣生の報告による集計です。目安としてお考えください。

奨学金

国際人材育成資金・基金	人数制限なし	上限60万円/年（留学期間）※学部DDの語学留学期間も別途申請可
米沢富美子奨学金	女性1名	85～90万円/年（2年間）
石井良明人材育成奨学金	5名	慶應学費相当額/年（2年間）
NSK奨学財団奨学金	1名	22万円/月・授業料（留学期間）、渡航費
日本学生支援機構海外留学支援制度（給付）	20名程度	8～11万円/月（1年間）

ここに記載されている奨学金情報は、あくまで一部です。最新の情報、併給が可能かどうかについては理工学部学生課国際担当または学生課学生生活担当奨学金案内のウェブサイトなどを各自調べるようにしてください。

留学紹介インタラクティブ動画

こちらから動画をチェック!

この動画では、プログラムの特徴や奨学金の情報はもちろん、
留学を経験した先輩によるリアルな体験談やキャリアにどう活きたかをコンパクトにまとめています。
留学や進路を考えるキッカケとして、ぜひお気軽にご視聴ください！

FAQ

Q. 実際にプログラムに参加している派遣生の声が知りたいのですが。

A. 派遣生たちからは、毎月現地の生活の様子を綴った報告書が送られてきています。理工学部国際担当のHP に掲載されていますので、いつでも閲覧可能です。必要に応じて派遣生へのメールなどにより直接質問をすることも可能です。

Q. 大学院生対象プログラムの場合英語力はどのくらい必要ですか？

A. 出願にはCEFR B2レベルの語学力の証明が必要です。TOEFL iBT80点を最低ラインとして準備をしてください。留学を検討している段階で語学の習得を意識してください。

その他のFAQは下記の理工学部国際担当ウェブサイトから閲覧可能です。

※2026年度４月ウェブサイトリニューアルに伴いURLが変わります。

理工学部国際担当ウェブサイト

2025年度まで　2026年度から

Double Degree Program

Keio University
Graduate School of
Science and Technology

Keio University

CALAMVS GLADIO FORTIOR
1858

理工学部学生課国際担当
ダブルディグリープログラム ウェブサイト
www.keio.ac.jp/ja/st/global/

お問い合わせ
慶應義塾大学 理工学部 学生課国際担当
ic-yagami@adst.keio.ac.jp
☎045-566-1468